

横田の軍用犬 入間航空祭で訓練を初披露 *Yokota first for MWDs at Iruma Air Show*

November 7, 2019

By Airman 1st Class Briana E Bolfig
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地第374憲兵中隊軍用犬チームは11月3日、第51回「入間航空祭」で、中部航空警戒管制団基地業務群管理隊警備犬管理班と合同による軍用犬・警備犬訓練展示に参加した。

この日、航空祭は12万5千人以上の来場者を迎え、恒例のアクロバティック航空ショーのほか、米軍・自衛隊による軍用犬および警備犬の訓練展示を行なった。

「航空自衛隊と米軍が築いている関係を、多くの人に見てもらうために訓練の展示を行った。自衛隊と共に米空軍の能力の一部を披露することができ、また仲間意識も高めることができた」とマヒュー・クラーク技能軍曹は述べた。

航空祭は、実践力や日米のハンドラーと軍用犬・警備犬との密接な関係だけでなく、第374憲兵中隊と管理隊警備犬管理班が長年に渡って合同で行ってきた訓練の成果を披露する場となった。

「航空自衛隊の警備犬の戦略や手順のほとんどを、我々米軍が指導してきた。航空祭で自衛官が披露した訓練は、横田で訓練を積んだ。自衛官は毎月横田に来ていたので、航空祭の現場はほとんどが顔見知りだった。彼らと共に過ごす時間は楽しく、何よりも彼らの訓練の上達を目の当たりにできたことに興奮した」と第374憲兵中隊軍用犬ハンドラーのセス・シャノン軍曹は述べた。

入間航空祭で日米の軍用犬および警備犬の訓練が披露されるのは、今回が初めて。来場者にとって注目のイベントとなった。

「今は、立場が入れ替わった感じがだ。自衛官に訓練を指導した結果、初めに彼らがうちの基地に来てサポートしていたのとは逆に、今度は我々が彼らの基地へ来てサポートしている。横田基地で訓練を積み、彼らが自衛隊基地で警備犬の任務を担えるようになったのを見ることができて嬉しい」とクラーク軍曹は述べた。

教える側と習う側の立場から、軍用犬・警備犬コミュニティーの同僚になれたことは、米軍と自衛隊との関係を新たなレベルに到達させた。

「まさに友情そのものだ。その友情によって軍用犬・警備犬(K9)ファミリーと一緒に素晴らしい成果を披露し、自衛隊と米軍のどちらかだけでなく合同で能力を展示できた。さらには、12万5千人もの来場者の前でその能力を示せたことを、とても嬉しく思う」とクラーク軍曹は述べた。

「航空祭に参加出来てよかった。過去2～3年間ずっと共に働き、訓練を行ってきた、今や仕事上のカンターパートとしてだけでなく、真の友人だと思える。任務として参加したが、自衛官とは互いにアイデアを出し合ったり、その場の体験を一緒に楽しむことができ、一日中友人と過ごしているような感覚だった。本当に有意義な時間だった」とクラーク軍曹は一日を振り返った。

